

きちんと学ぶ「ハーブ栽培」講座

(ハーブ栽培を基本から学びたい人に)

第一回：ハーブの選び方・植え付け方・水やりの極意

あなたはいま、ハーブを育てることについて
深く学ぼうと決めて、扉の前に立ちました。

その扉の向こうには、
爽やかな香りに包まれて青々と輝く
あなただけのハーブガーデンが広がっています。

さあ。扉をあけて、足を踏み出しましょう！

大丈夫。あなたは、ひとりではありません。

わからないことがあれば、遠慮なく
わたしにお尋ねください。

あなたの歩調を確認しながら、
あなたが「自分の手で」ハーブたちを生き生きと
育てられるようにナビゲートします。

今日のレッスンを終える頃には、きっと
これから、どんなハーブを育てようか
ワクワクする気持ちに溢れていることでしょう。

それでは、第1回目のレッスンを始めましょう！

どんなハーブを選ぶ？

「ハーブを植えよう」

そう決めたら、いちばんに考えるのが「どんなハーブを選ぶのか？」ということ。

これから一緒に暮らすハーブを選ぶプロセスは、とても楽しい作業です。

あなたにとって最良な選択ができるように、まずは「ハーブの選び方」を学んでいきましょう。

ハーブの選び方には、下記のような選び方があります。

- 自分の好きなハーブを育てる
- 目的に沿ったハーブを育てる
- 育てやすいハーブを育てる

◆ 自分の好きなハーブを育てる

ハーブを育てる時に、大きなモチベーションになってくれるのが「好き」という気持ちです。絶対にこれを育てたい！という強い気持ちがあれば、たとえ大変なことがおきても、たとえ失敗してしまったとしても、またチャレンジしてみよう！という気持ちが湧きやすくなります。そういった意味で「自分の好きなハーブ」という選び方は、とても有効だと思います。

一方で、これを育てたい！という強い思いでハーブを決める場合、そのハーブが実は中級者・上級者向けのハーブということもありえます。「自分の好きなハーブ」で選ぶ際は、次でご紹介する「育てはじめる前の事前調査」をしっかり行い、あらかじめそのハーブの特性と、気をつけることへの理解を深めた上でスタートをきりましょう。

◆ 目的に沿ったハーブを育てる

あなたがハーブを育てたい理由は、なんでしょうか。

- ハーブをお料理に使いたい(キッチンハーブ)
- ハーブティーを飲みたい(ティーハーブ)
- ハーブでさまざまなものを作りたい(クラフトハーブ)
- ハーブを蒸留などして精油を作りたい(アロマテラピーハーブ)
- ハーブを花材としてスワッグやリースを作りたい(アレンジメントハーブ)
- ハーブガーデンを作ったり、ハーブの花を楽しみたい(ガーデニングハーブ)

どんな目的でハーブを育てるかによって、選択するハーブが変わってきます。

もちろん、目的をひとつに絞り込めなくても、大丈夫。ひとつのハーブで、いろいろな使い方ができます。あなたの希望を聞かせていただければ、講座のなかであなたに最適なハーブをご提案します。

◆ 育てやすいハーブを育てる

ハーブのなかには、初心者さんにも比較的育てやすいハーブと、ある程度「ガーデニング作業」に慣れた人のほうがうまく育てやすいハーブとがあります。

これまでハーブ以外の植物はいろいろ育てた経験があるという方なら、中級者向けのハーブにチャレンジしてみるのもいいと思います。(その際は、これまで育てた植物とハーブの育て方の違いを理解してからスタートすることをおすすめします。そうすることで、より一層うまく育てることができるでしょう)

逆に、あまり植物を育てた経験がないという方なら、初心者さんにも安心して育てられるハーブから栽培をはじめると安心です。そのハーブを上手に育てられれば「私にもできた!」と大きな自信もつきますし、実際に自分で育てたハーブを収穫する楽しみを知れば、次はこれを...と、もっともっとハーブを育てたくなると思います。

「育てやすさ」に関係してくる要素を挙げてみると...

- 成長のスピード
- 虫に強いのか

- お手入れが楽か
- 草本か、木本か
- 耐寒性／耐暑性があるか

などが「育てやすさ」に関係していると言えます。

◇ 初心者さんにおすすめのハーブ

ここで、よく名前を聞くハーブを育てやすさでグループ分けしてみます。
あなたのハーブ選びの参考にしてみてください。

「植物を育てるのがはじめて」さんにおすすめのハーブ

- バジル
- ミント
- レモンバーム
- ローズマリー
- センテッドゼラニウム

「他の植物の栽培経験はある」ハーブ初心者さんにおすすめのハーブ

- イタリアンパセリ
- コリアンダー（パクチー）
- チャービル
- ルッコラ
- シソ
- オレガノ
- タイム
- レモングラス
- チャイブ
- フェンネル
- カレンデュラ（ポットマリーゴールド）
- エキナセア
- マートル
- ローリエ（ローレル）

「これまでもハーブの栽培経験がある」ハーブ中級者さんにおすすめのハーブ

- レモンバーベナ
- セージ
- ラベンダー
- ナスタチウム
- ジャーマンカモミール
- スイートマージョラム
- ユーカリ
- エルダー
- デイル
- フレンチタラゴン

成功の近道は、事前準備

植えたいハーブが決まったら、ぜひ下記の準備を行うといいでしょう。

- そのハーブの年間スケジュールと、留意点を調べる

- そのハーブをこの先どう育てていきたいかを考える
- 植え付けに必要なものを準備する

特にはじめの2つを飛ばして、とにかく「すぐ植える」という人がとても多いのです。しかしそういう方に限って、ハーブ栽培に苦労したり、「どうしよう」という壁にぶち当たったりします。(昔の私が、まさにそうでした...)

植えるハーブを決めたら、すぐにでも植えたい気持ちはよく分かります。ですが、楽に、そして失敗なくハーブを育てるためには、ちょっと調べたり・考えたりする時間をとるようにしましょう。

あるいは、お店でハーブの苗を見つけて衝動的に購入をしてしまった時(これ、意外とあるあるです笑)も、植え付ける前にほんの少し時間をとることで、ハーブをのびのび育ててあげることができますし、ストレスなく付き合っていくこともできます。

◆ そのハーブの年間スケジュールと、留意点を調べる

新しくハーブを育てる時。あなたはどんな情報を調べますか？

種をまく時期。花が咲く時期などは、調べるでしょうか。

実はそれ以外にも、ぜひ調べてほしいことがあります。

そのハーブの基礎的な情報を知っておけば、よりハーブが育ちやすい環境に近づけてあげることができます。

また、そのハーブのお手入れをどのタイミングで行うかをあらかじめ知っておくことで、適した時期にもれなく必要なケアをしてあげることができます。

主に、下記のポイントについて調べておくといいでしょう。

- 科名(シソ科、キク科など)
- 分類(一年草、多年草、低木など)
- 原産地(どんな環境の場所か)
- 特徴(暑さに弱い、寒さに弱い、移植に弱い、蒸れに弱いなど)
- 成長の目安(大きくなるスピードと、目安の大きさ)

- 増やし方(種まき、挿し木、株わけなど)
- 植え付け・植え替え時期
- 種まき時期
- 挿し木・株分け時期
- 切り戻し・剪定時期
- 肥料時期
- 花期
- 収穫期

これらを1から調べるのは大変...という方は、エルブ・ド・ミツコの『ハーブ別「育て方・活用レシピ」講座』もご活用ください。あなたの興味あるハーブに絞って、育て方のコツや活用法などを掘り下げて、理解を深められる内容になっています。

◆ そのハーブをこの先どう育てていきたいかを考える

これは、いわゆるあなたの「栽培方針」です。

同じハーブでも、どんな環境で、どう育てたいかによって、成長が変わってきます。

たとえば...

- 大きな株にして、収穫量を増やしたい
- 小さな場所で育てられるように、コンパクトに保ちたい
- とにかく早く収穫したい

どんな方針で育てるかによって、鉢の大きさや剪定の仕方が変わってきます。

ぜひ、あなたがどう育てたいかを、レッスンでお聞かせください。それに沿ってアドバイスさせていただきますね。

◆ 植え付けに必要なものを準備する

いよいよ、植え付け準備です。

鉢植えで育てる場合。植え付けに最低限必要なもの・あるといいものは、下記になります。(※ 地植えで植え付けを予定されている方は、土の状態や土壌酸度(pH)などによっても必要なものが変わってきますので、講座のなかでご説明します。)

◇ 必要なもの

- ハーブの苗
- 鉢
- 土(培養土)
- 鉢底石・鉢底ネット
- 土入れ
- ジョウロ

◇ あるといいもの

- 園芸用ハサミ
- 移植ゴテ(ミニスコップ)
- 割り箸
- 園芸用ビニールシート
- 土保存用の入れ物
- 肥料

◇ 鉢の選び方

主な園芸用の鉢は、大きく3種類あります。

- 素焼き鉢(テラコッタ)
- 駄温鉢
- プラスチック鉢

素焼き鉢は、水分が蒸発しやすい(＝水はけがいい)性質を持っています。また重さがあり、8号鉢以上になると鉢の重さに加えて土の重量もあるので、鉢の移動や植え替えが非常に重労働になります。また、焼きが緩いため、割れやすいという面もあります。

駄温鉢は、素焼き鉢をさらに高温で焼き締めたものです。素焼き鉢よりも水分が蒸発しにくく、保水性がいいという性質を持っています。重量は素焼き鉢同様になりますが、素焼き鉢よりも高温で焼き締めているので、比較すると割れにくいです。

プラスチック鉢は、素焼き鉢や駄温鉢のように鉢の表面に細かい穴が空いているわけではないので、最も保水性に優れています。また割れにくいので高層階住宅にお住まいの方でも、安心して使用できます。

重量も非常に軽く、10号鉢以上の大鉢でも比較的楽に植え替えをしたり、鉢の移動が可能です。最近は、非常に多くのデザインの鉢が販売されていて、リサイクル材を使った環境に配慮したものや、デザイン性に優れたおしゃれな鉢もあります。

以上を踏まえた上で、どんな鉢を選んだら良いか...ですが。たとえば...

- 素焼き鉢が向く人

水やりが好きで、できれば毎日でも水やりをしてお世話をしたい。

夏の時期も、特に長期で家を不在にすることもない。

テラコッタの質感が好き。

- プラスチック鉢が向く人

あまりちょこちょこ水やりをするのは難しいし。

長い休みをとって旅行や帰省をすることがある。

スペースに限りがあるので、鉢の場所移動などもカンタンにしたい。

インテリアにこだわりがあるので、鉢もおしゃれなものを選びたい。

など、あなたの栽培環境や好みで選ぶといいでしょう。

ちなみに、ベランダや小さい庭でハーブを鉢植えで育てるのならば、おすすめはプラスチック鉢です。私もベランダでハーブを育てていますが、すべてプラスチック鉢を使用しています。そのなかでも、スリット鉢と呼ばれる鉢を使用しています。

スリット鉢とは？

スリット鉢は、いくつかのメーカーから発売されていますが、最も一般的なのはグリーン色のスリット鉢です。私がスリット鉢を選んで使用しているのは、その緑色が好みということに加えて、植物を栽培する上でとても大切な「根」を健康に保ちながら育てられるという点に、とても魅力を感じています。

鉢に切り込みがあるスリット鉢は、水はけもよく根腐れも起こりにくく、酸素の入れ替えもスムーズなので根の呼吸を助けます。サークリング現象が起こりにくいので、健康な根が育ちます。

＜サークリング現象＞

鉢の側面や底に、根がぐるっと巻くように成長してしまう現象。

根が硬くなり、根詰まりを起こしやすくなります。

スリット鉢は、もともとは生産者用に販売されていた鉢ですが、根の生育が安定していて、水はけも申し分ないので人気が高まりました。家庭におけるガーデニングでも非常に人気が高い鉢です。

鉢の大きさは？

鉢の大きさに関しては、その後の成長と植え替えの頻度を考慮して、大きすぎず小さすぎない鉢を選ぶことが大切です。

大きすぎる → 常に水が湿っていて、根腐れしやすい

小さすぎる → 根が伸びるスペースがないので大きく育ちにくい

一般的に、鉢の大きさは○号鉢という言い方で表します。

これは1号＝3cmで、鉢の上部の直径を表しています。鉢によっては、高さ(深さ)があるものあり、○号ロング鉢(長鉢)と呼ばれたりもします。

通常、販売されているポット苗を購入して植え付ける場合は、おすすめは6号鉢(直径18cm)です。

◇ 土についての考え方

ある程度、ガーデニングの経験値がたまってくると、自分で配合を考えた「オリジナル用土」を作る人もいます。赤玉土、鹿沼土、くん炭、バーミキュライト、腐葉土...などなど。自分の理想とする配合の土を作る楽しさもあります。

とはいえ、土の種類や性質も覚えなくてはいけないし、ましてや配合によっても用土の特徴が変わるので、オリジナル用土は、園芸初心者さんにとってはハードルが高いのも事実です。またガーデニングのスペースが限られる方にとっては、さまざまな種類の土を保存しておく場所も厳しいでしょう。

そういう場合は、すでにプロが配合を考えた「培養土」を使用するのがおすすめです。植物に合わせてさまざまな種類の培養土が販売されていますが、ハーブ栽培の場合は「ハーブ用の土」もしくは「野菜用の土」を選ぶといいでしょう。

あらかじめブレンドされた培養土には、植え付け時に必要な元肥(もとごえ)が含まれているものが多いので、肥料を準備することを省けるというメリットもあります。

植え付けしましょう！

では実際に、植え付けを行っていきましょう。

◆ 植え付けの手順

① 鉢の底に、鉢底ネットを置き、鉢底石を入れます。(スリット鉢の場合は、底に穴がないので鉢底網は不要です)鉢底石は、鉢の大きさによっても変わってきますが、底から3cm程度(鉢全体の1/5以下)が目安です。

②土を鉢の半分程度入れたら表面を軽くならし、苗をポットのまま入れてみて、植え付けイメージを確認します。苗を置いたときに、苗の土表面が鉢の縁よりも2～3cm程度低い高さになるように調整します。

③苗をポットから出し、②の土の上におきます。ポットの下を少し押してあげると取り出しやすいです。根の状態を確認して、根がかなり回っているようならば、手もしくは割り箸などでほぐします。直根性で根をいじられるのを嫌うセリ科のハーブ(ディルやフェンネルなど)は、根鉢は崩さずにそのままにします。

④培養土に肥料が含まれていない場合は、鉢土の上においた苗の周囲に、適量の肥料を施します。

⑤苗の周りに土を追加します。土は、鉢の縁ギリギリではなく、縁から2～3cm程度下になるようにします。この数cm分のスペースを、ウォータースペースと呼びます。ウォータースペースを作っておかないと、水やりをした時に、鉢から土がこぼれて周りを汚れてしまうので、一時的に水がたまる余裕を作っておきましょう。

⑥土を入れ終わったら、鉢の周りをトントンと叩いて、土をならします。割り箸などを軽く差し込んで、隙間を埋めるのもいいでしょう。ただし、土の上から手でギュッと押してしまうと、土が潰れてしまいます。適度に空気を含んだ土の状態が理想的なので、土を押さえないようにしましょう。

⑦植え付けが終わったら、水やりをします。鉢を持ち上げた時に、鉢の底から水が溢れてくるくらい、たっぷりと...がポイントです。しっかりと水をあげることで、自然に土が締まります。(なので、⑥で土をギュッと押し込まなくてもいいんです)

植え付けた苗は、2～3日の間は風の強い場所や、直射日光が長い間当たる場所は避けておくとう安心です。徐々に活着するように、環境に慣らしてあげましょう。

ここで少し、肥料と日当たりと水やりについてお話ししたいと思います。

◇ 肥料の考え方

ハーブの肥料を考える時のポイントはふたつあります。

- どんな種類の肥料を使うのか
- どれくらいの量を使用するのか

使う肥料の種類

肥料には、有機質肥料と無機質肥料の2種類があります。

有機質肥料は、動植物を原料とした肥料のことを指します。具体的には、油かす(菜種や大豆などから油を搾り取った残渣)や、鶏ふん(鶏の糞)、魚粉(魚を煮て水と脂を抜いて乾燥させたもの)、骨粉(豚や鶏の骨を乾燥・粉碎したもの)、米ぬかなどです。

様々な成分が含まれる反面、分解してから植物に吸収されるため効果が現れるのに時間がかかることや、臭いがすることが挙げられます。

無機質肥料は、石油・鉱石(リン鉱石、カリ鉱石など)を原料とする肥料です。水に溶ける成分が多いため、施肥後すぐに効果が現れることがメリットです。反面、施用量が多いと肥料やけを起こすので注意が必要です。

よく、オーガニックなハーブを育てたいから有機質肥料を使いたいという方がいますが、有機質肥料＝人体に無害で安全というわけではありません。

有機肥料には、作る際に発酵させるという工程が必要になります。その時に発酵不十分だとサルモネラ菌や大腸菌O-157などの細菌が発生してしまう恐れがあります。また、有機肥料の元となる動物が遺伝子組み換えの飼料や農薬使用の飼料で育っていた場合、糞の中にそれらの残留が出る可能性もあります。

自分や家族の健康のためにオーガニック栽培にこだわりたいという場合は、どのレベルまでを許容とするのか、ご自身で明確にしておく必要があるでしょう。

どれくらいの量の肥料を使うのか

花卉(花)や野菜の栽培と、ハーブの栽培を比べた時に大きな違いのひとつとなるのが肥料の使用量です。花や野菜は、肥料を十分に与えることによって、短期間で花の数を増やしたり、葉や実や根を肥らせて収穫することを前提とします。また、多くの花や野菜は品種改良によって原種(野生種)からさまざまに改良が加えられています。

例:葉物野菜のキャベツやケール、花野菜のカリフラワーやブロッコリーは
すべて同じキャベツの野生種を祖先とします。

一方でハーブは、原種(野生種)に近いものが多く、生育するのに花や野菜ほどの肥料を必要としません。そこが、「ハーブは栽培が簡単」と一般的に言われる所以です。

ハーブの場合は原種(野生種)に近いので、肥料を必要としないばかりか、多すぎる肥料によって株が成長すぎて葉や茎が柔らかくなり、アブラムシなどの害虫やうどんこ病などの病気にも弱くなります。

また、ハーブ特有の香りは、虫や動物から身を守るためにあると言われています。
そしてその香りは、環境が過酷であればあるほど、生存するためにより強くなります。

ところが肥料も水も十分に満たされた環境で育てると、ハーブは自ら必死に生存する必要がなくなるので、香りが弱くなってしまうのです。

つまり、ハーブ栽培においては、多すぎる肥料はハーブのためにもならないし、収穫を楽しみにする私たちのためにもならないのです。

ハーブを育てる時は、極力最小限の肥料で育てることをおすすめします。

これまで花や野菜を育てたことがある人は、その感覚でハーブに肥料をあげてしまうと、明らかに肥料過多になるので、注意しましょう。

◇ 日当たりの考え方

「ハーブを育てるなら、南向きか東向きで。西日は避けて、日中の明るい太陽に十分当てましょう」と言われることが多いです。でも、私の住んでいる部屋は、完全に西向きの高層階です。午前中は全く日が射しません。太陽光があたるのはお昼を回ってから。夕方の西日もガンガン当たっています。

ハーブの栽培に「よくない」とされている西向きで、西日がガンガン当たる環境でも、実は工夫次第でハーブは育つのです。

ではなぜ、南向きか東向きが良いとされ、西向き・西陽が良くないとされるのでしょうか。ポイントとなるのは、日照時間と気温・地温の関係です。

ほとんどのハーブにとって、太陽の光は好ましいものです。真夏の眩しいほどの太陽を除けば、春・秋・冬は、できるだけ太陽の光に当ててあげることが望ましいです。

夏に関しては、太陽光が強すぎて、葉焼けを起こしたり、土が乾燥すぎて水不足になったりするので、寒冷紗などで日光を遮ってあげる必要が出てきます。

西陽も、真夏の太陽と同じ考え方です。

太陽光の熱量が強すぎて葉や土に良くない影響があるので、西陽よりも温度の低い午前中～午後早めの日光がよしとされます。ですが、真夏の太陽の対策を活用すれば、西向きの西陽ガンガンの環境でもハーブを育てることは可能です。

西向きの環境でハーブを育てたい場合は、少ない日照時間でも可能な限りハーブに日が当たるように置き方を工夫したり、土が乾きすぎないように保水性の高い鉢を使ったり、水やりの頻度を増やしたり...などの対策が可能です。

水やり習得が成功のカギ

「水やり三年」という言葉があります。たかが水やり、されど水やりで、365日気温も日照も異なる環境で、日々最適な水やりができるようになるまでは時間がかかるという意味の言葉です。

特にハーブ栽培においては「水やり」は重要です。枯れさせては元も子もありませんが、やりすぎも禁物です。

日々、私に寄せられる質問のなかでも、水やりに関する質問・相談はとても多いです。下記の相談も、実は適切な水やりをすれば解決することが多いです。

「ものすごく虫がつくのですが、どうしたらいいですか？」

「うちのハーブは香りがしないです。買った時と比べると圧倒的に弱いです」

「うちのベランダは高層階の西向きで、なんと植えても枯れてしまいます」

ほんとうに、とっても奥が深い水やり。

週に〇回という単純なルールでは統一できませんし、同じ環境でも水分を好むハーブのあれば乾き気味が好きなハーブもあります。

ハーブ栽培においては、水やりのコツを掴むことが成功の近道です！

そこで、できるだけ初心者さんにもわかりやすいように水やりの極意をまとめてみたいと思います。

◆ 水やりは、なんのため？

水やりは、なんのためにするのでしょうか。

「水は、植物を育てる上で欠かせないもの。だから葉や花に水分補給をするために水をあげる」
...間違いではありません。でも半分正解で、半分不足しています。

水やりの目的。それは「よい根張りを促すため」です。

どんなに葉や茎などの地上部が大きく育ち繁っていても、根がしっかり育っていなければ葉や茎に水分を届けることができません。

水やりを考える時に大切なのは「常に、根を考えること」。

ハーブの栽培に慣れないうちは、「乾かないように」と考えて、つい毎日お水をあげてしまいがちです。

でも、いつも土が湿っていると、根腐れの可能性が高まるだけでなく、根が伸びないことにも繋がります。根を張らなくてもいつも水がある状態なので、「根が甘えて」頑張らなくなるのです。

地上部は育っていても、根が十分に張っていない植物は真夏の暑い時期にほんの少しでも水切れをすると、あっという間にしおれてしまいます。最悪、応急処置が間に合わず、そのまま枯れてしまうことも...

また常に湿った土で育つハーブは軟弱に育つので、茎も柔らかく、倒れやすくなります。倒れやすだけではなく、軟弱な株はアブラムシなどの害虫や、うどん粉病などの病気にもやられやすくなります。

更には、ハーブの香り成分は、過酷な環境になればなるほどより強くなるものです。水分が多めにある環境だと、肝心の香りも弱くなってしまいます。(このあたりは肥料と同じです)

そう考えると、水やりをしすぎるのは、ハーブにとっても育てる人にとっても、決していいことではありません。

あまり過保護にしすぎず、すこしだけ厳しめの環境で育てる。そうして、しっかり植物の自力をつけてあげることが大切です。(ちょっと子育てと、似てませんか？)

◆ 具体的に、どう水をあげるのか

「土の中の根を常に考えること」は理解できたけれど、では具体的にどう水をあげたらいいのか。

丈夫なハーブを育てたいのであれば、水やりから次の水やりまで、「どれぐらい期間を開けられるか」がポイントです。

言い換えると、「どれだけ水やりをせずに、我慢できるか」が大事なのです。

土をいつもジャブジャブに濡れた状態にはせず。かといって、萎れて枯れるまで水を与えないのでもなく。程よい間隔をあけて土が乾燥してしおれてしまう一歩手前で水やりするのが、腕の見せどころです。

水をあげるときは、下記を心がけましょう。

- 鉢の底から水が流れ出るくらい、タツブリと

- 葉水は基本、した方がいい
- 与える時間は、朝早めがいい
- 土の表面が乾いたら水やりを

◇ 鉢底から水が流れ出るくらい、タツプリと

水やりは、ただ土を湿らすのではなく、鉢から流れ出るくらい水やりをしましょう。

そうすることで、土の中の老廃物を鉢の外に流し出し、新しい酸素を取り入れることにも繋がります。

その観点から、鉢底からの給水を常用するのはあまりおすすめではありません。

◇ 葉水は基本、した方がいい

また、水やりをする時は葉や茎などの地上部にも水をかけましょう。葉水をすることで、虫対策にもなります。ただし、蒸れに弱いハーブは葉にはかけずに、根元だけに水をあげる方がいいです。

また真夏で葉が暑いときに葉水をすると葉と水の温度差で葉が痛むことも。暑い時間帯は水やり・葉水は避けましょう。

◇ 与える時間は、朝早めがいい

水やりにおすすめなのは、気温が上がる前の「朝」です。植物は明るい時間に水を吸収し、葉から蒸散させます。朝に水やりをすれば、気温があがる前に水を植物に行き渡らせることができます。

夜に水やりをすると、水の吸収スピードが落ちるので土が湿る時間が長くなってしまいます。また気温があがる日中に水やりをすると気温とともに地温もあがり、植物が痛みやすくなります。

ただし真夏などは、気温が落ち着いた夕方に地温や葉の表面温度を下げる目的で水やりすることもあります。

もちろん、真夏の日中に水切れをしたハーブが萎れてきた場合はすぐに応急措置を。次の日の朝まで待たずに、日陰もしくは室内で水やりをして様子を見ましょう。

◇ 土の表面が乾いたら水やりを

そして最後に。水やりは「土の表面が乾いたら」が目安です。

土の表面が湿っている時は水やりを控え、表面が乾いたら水をタップリと。

常に水が湿った状態があまりよくないことについては、先ほど「土の中の根を常に考えること」のところで話をしました。

土の乾き具合を確認しながら水やりしていると、だんだんと「あ、まだ大丈夫」「そろそろやばいな」という感覚が掴めてきます。

そうになったらしめたもの。その頃には、水やり初心者卒業です！

ちなみに。水やりをする時は、じょうろでも散水用ホースでも、先端が蓮口になっているものがおすすめです。蓮口のソフトな水なら、植物を倒してしまったり、土をえぐってしまうこともありません。

◆ 水やりに影響する要素の解説

水やりに影響を与える項目を挙げてみます。

- ハーブの種類
- 地植え(露地栽培)か、鉢植え(容器栽培)か
- どんな土か
- 植物の成長具合

- 季節・気温・湿度
- 日当たり・風などの環境

自分の育てるハーブの状態を6つのポイントに照らし合わせることで、どんな水やりをすれば良いかコツが掴めるようになると思います。

◇ ハーブの種類

水を好むハーブもあれば、乾燥気味を好むハーブもあります。

ハーブの原産地がどこかによっても異なりますし、葉の大きさ・柔らかさでも変わります。

葉が大きく柔らかいバジルやミントは、水を多めに欲しがります。

同じシソ科のハーブでも、タイムやローズマリー、ラベンダーは葉が小さく硬いので、あまり湿った環境は好みません。

特に、複数のハーブを寄せ植えにしている場合。元気に育つものとそうでないものが出てくるときは土の湿り具合が原因のことが多いです。

寄せ植えではなく、複数のプランターで育てている場合も、全ての鉢に、同じ頻度で水やりをしていると同じ現象が起こります。

◇ 地植え(露地栽培)か、鉢植え(容器栽培)か

露地栽培の場合。ハーブが活着したら、自然の雨水任せで基本的には大丈夫です。

容器栽培の場合には、鉢の素材・大きさによって、水やりの頻度がかわってきます。

素焼鉢は乾きやすく、駄温鉢は素焼きよりは乾きにくいですが。

プラスチック製の鉢はさらに乾きにくいので、あまり頻繁に水やりができない場合は、プラスチック鉢で栽培するのがおすすめです。

また、小さい鉢だと土の容積が少なく保水力が限られることに加え、ハーブも十分に根張りができないため乾きやすくなります。

乾燥が原因で枯らしてしまうとお悩みの方は、少し大きめのプラ鉢に植え付けてあげると安心です。(あまりにも大きい鉢だと土が乾きにくく根腐れの心配があるので、適度な大きさの鉢がいいです)

◇ どんな土か

土の種類によって保水力が変わります。

自分の好みで土をブレンドするレベルになってきたら、この辺りはご自身で感覚が掴めていると思います。

土による違いがまだよく分からないという場合は、市販のハーブ用の培養土を使い、まずは水やりに慣れ、感覚を掴まれるといいと思います。

◇ 植物の成長具合

根から吸収した水分は、葉から蒸散されます。葉が茂っていれば、出ていく水分が多くなるので、それだけ根からもたくさんの水を吸う必要があります。

逆に、小さい株や冬で葉を落としている株は、蒸散量が減ります。つまり土が乾くのが遅くなります。

ちなみに。挿し木をする時に挿し穂の葉を少なくするのは。蒸散量を減らして、まだ根がない挿し穂がしおれないようにするためです。

また花をつけている時期は、通常よりも水を必要とします。蕾があがり、花が咲いたら、いつもよりも多めの水やりを心がけましょう。

◇ 季節・気温・湿度

同じハーブでも、夏は朝晩2回水やりをすることもあれば、冬は1週間に1回ということもあります。
また同じ気温でも湿った季節なのか、乾いた季節なのかでも変わります。

◇ 日当たり・風などの環境

日当たりがよく常に風通しの良いベランダなのか、日が当たらない北向きの地面なのかでも土の
乾きやすさは全く違います。

また雨水の当たらない場所なのか、地植え同様に雨水で濡れるのかかでも当然変わってきます。

ただお水をあげるだけなのに、とても奥が深い「水やり」。

お話したポイントに照らし合わせて、自分が育てるハーブには水は多めがいいか、控えめがいい
か、考えてみてください。

その上で、土の乾き具合をみれば、適切な水やりのタイミング・頻度も自信をもって調整できるよ
うになります！

かなりボリュームのある内容になりましたが...本日の講座は以上です。

最後にご質問を受け付けたいと思います。

<コラム> 寄せ植えについて

ハーブを植え付けする時に、寄せ植えにしたいという方がいらっしゃいます。

数種類のハーブがひとつにまとまった姿はとても素敵です。

デザインの的にも楽しめますし、キッチンハーブを寄せ植えにしてキッチンカウンターで育てるのも、いいインテリアになります。

寄せ植えを作りたいと思った時は、ぜひ下記のポイントを踏まえて作ることをおすすめします。

- 寄せ植えは長くても3ヶ月～半年を目処とする
- 水やり傾向が似ているハーブを寄せ植える
- ずっと室内だと生育が悪く徒長するので、定期的に日光に当てる

特にひとつめのポイントですが。

花を栽培している人はよくわかると思いますが、基本的には寄せ植えは「期間限定」で楽しむものです。本来は株間をあけて栽培した方がよい植物を、ぎゅっと小さい環境に「寄せ植え」するので、長期的に寄せ植えの状態で育てることには向いていません。

長く栽培をしてハーブを楽しみたい場合は、寄せ植えではなくミニハーブガーデンがおすすめです。ハーブの株ひとつに対してひと鉢を用意してあげて、それらを寄せ植えのように複数並べる方がハーブの生育にはいいです。

寄せ植えとして楽しんだハーブは、収穫をして終了するか、ひとつずつ株をバラして再度個別に植え付けてあげるといいでしょう。

さいごに

きちんと学ぶ「ハーブ栽培」講座。第1日目の内容はいかがでしたか？

終了後に、実際に植え付けする時に使っていただける「チェックシート」と、今日の内容をしっかりと身につけて頂くための「振り返りシート」をお送りします。

振り返りシートは、ご記入・ご入力されたら私までご返信ください。
わからないことがあれば、ご遠慮なくシートに記入してくださいね。

コメントやご質問の答えを添えて、お戻しいたします。

振り返りシートをお戻しするときに、合わせて第2回目のテキストをお送りします。

次回は「育ったハーブの摘心・剪定・収穫の仕方」です。ぜひ楽しみに！